

継承される長野の情熱

第28回ピンバッジコレクション NAGANO を終えて

1998年、世界が熱狂に包まれた長野冬季オリンピック。あの冬、この地で爆発的に沸き起こった「ピンバッジ文化」は、単なる記念品の枠を超え、言葉の壁を越えて心を通わせる不思議な魔法のようでした。あれから28年。昨日、私たちは今年もまた、あの開会式と同じ特別な日付に、長野の地で「第28回ピンバッジコレクション NAGANO」を開催いたしました。

このイベントは、長野で産声を上げたピンバッジ文化の灯を絶やさず、次世代へと繋いでいくための大切な継承の場です。地元長野はもとより、東京、名古屋、大阪といった各地から、かつての情熱を胸に秘めた愛好家の皆様が集結しました。会場のあちこちで、手に取った小さなバッジを媒介に、当時の思い出話に花が咲き、新たな交換が生まれる。それは、普段の生活の中では決して味わうことのできない、愛好家たちだけの濃密で特別な空間です。

オリンピックピンバッジから始まったこの交流は、28年という歳月を経て、単なる物との交換を超えた、素晴らしい人の「繋がり」へと昇華されました。私はここ20年間、まとめ役という大役を仰せつかってまいりましたが、イベントを運営する中で痛感したのは、皆様のオリンピックピンバッジに対する揺るぎない熱意と、何より愛好家同士の非常に友好的で温かな絆です。この強固なネットワークこそが四半世紀を超えてこの会が続いてきた最大の原動力に他なりません。

オリンピックが開催され続ける限り、そして皆様の情熱の火が絶えない限り、この交流は永遠に続いていくことでしょう。小さなピンバッジが繋ぐこの物語は、これからも多くの人々の人生に彩りを添えていくはずです。

最後になりますが、昨日のイベントに参加された全ての皆様、そしてご来場いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。皆様のおかげで、今年も長野の空に素晴らしい交流の虹を架けることができました。本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

2026.2.8 玉井政道